

岩倉街道について

岩倉（いわくら）街道は、現在の清須市（下小田井村）から、名古屋市西区山田地区の西部（中小田井村・上小田井村・平田村）を通り、北名古屋市、岩倉市、一宮市東端、江南市、扶桑町を経て犬山市へと向かう街道です（終点にはいくつかの説がありますが、犬山へ通じています）。

江戸時代に入り、清洲から名古屋へと城が移ったのちに開設され、大消費地である名古屋城下の庄内川対岸に位置する下小田井に設けられた青物市場へと野菜が運ばれました。

岩倉街道に関する資料をご案内します。

1. 『日本歴史地名大系 第23巻 / 愛知県の地名』（平凡社）**N291**
タイトルコード 1009210155480 ★314 ページ

【主な内容】

- ◇ 犬山街道・柳（やなぎ）街道・九ノ坪街道とも。
- ◇ 名古屋城下と犬山城下を結ぶ街道。
- ◇ 下小田井村の枇杷島橋～庄内川西堤を北上～中小田井村【春日井郡】～九之坪（くのつぼ）村【春日井郡】～岩倉村【丹羽郡】～小折（こおり）村【丹羽郡】～安良（やすら）村【丹羽郡】～力長（りきなが）村【丹羽郡】～犬山城下。
- ◇ 江戸時代、丹羽郡内から街道をとおして、「土物」を中心に名古屋へ出荷。ごぼう、にんじん、つくねいも、うど、たけのこ、きゅうり、輪切干大根。
- ◇ 岩倉と小折に六斎市あり。

2. 『あいちの街道ひざくりげ』 谷彰／著 （第一法規出版）**NA29**
タイトルコード 1009210219431
★64 ページ～67 ページ

【主な内容】

- ◇ 名古屋から、小田井（西区）、九の坪（西春）を経て、岩倉に入り、石仏（いしほとけ）まで続く街道。街道はさらに、小折（江南）、力長（江南）、柏森（扶桑）を経て、犬山へ。

3. 『角川日本地名大辞典 23 / 愛知県』(角川書店) **N291**
タイトルコード 1009410049528 ★179 ページ

【主な内容】

- ◇ 犬山街道。岩倉街道ともいう。
- ◇ 名古屋～犬山間を結ぶ往還。名古屋城下～九之坪～大山村～石仏～小折～安良～犬山。
- ◇ 『尾張徇行記』によれば、このうち名古屋城下～岩倉村あたりまでを岩倉街道と称していた。『丹羽郡史』『丹羽郡誌』か] では、小折より南を岩倉街道とする。

4. 『西春と岩倉街道』 岩倉街道調査委員会／編 (西春町教育委員会) **A68**
タイトルコード 1009916069485

【主な内容】

- ◇ 平成元(1989)年の西春町内における岩倉街道の航空写真あり。
- ◇ 昭和26(1951)年の同じ部分の航空写真あり。
- ◇ 西春町内の岩倉街道に関する詳しい調査報告書。
- ◇ 岩倉街道全体の解説(7ページ～14ページ)。
- ◇ 参考文献一覧(184ページ～185ページ)。
- ◇ 歴史的に、街道の、犬山～岩倉、岩倉～名古屋は別に整備されたもの。岩倉以南は、慶長5(1610)年の清洲越しをきっかけに整備。
- ◇ 街道は、枇杷島橋の西の橋詰めを起点とする。ここより、美濃路とわかれ、犬山にむかう。
- ◇ 柳(やなぎ)が植えられたので、柳街道とも。
- ◇ 枇杷島橋から犬山まで約24キロメートル。

5. 『なごやの古道・街道を歩く』 池田誠一／著 (風媒社) A295
タイトルコード 1009916079463
★106 ページ～113 ページ

【主な内容】

- ◇ 1610 年の清洲から名古屋への城の移転を機に、下小田井市場（青物市場）を開設。
- ◇ 市場に野菜を運ぶ重要な道のひとつが、岩倉街道（1667 年開設）。
- ◇ 起点は、枇杷島橋の西詰。終点ははっきりせず、岩倉から先は、小折（こおり）（江南市）までか、犬山までか説あり。
- ◇ 下小田井の市場は、昭和 30（1955）年にもとの位置から 700 メートル移転。さらに、昭和 58（1983）年に、豊山町の北部市場として移転。

6. 『愛知県史 別編 [7] / 建造物・史跡』 愛知県史編さん委員会／編集 (愛知県) A20 タイトルコード 1009916014530
★307 ページ～308 ページ

【主な内容】

- ◇ 中小田井（名古屋市町並み保存地区 昭和 62 年 7 月 13 日指定）。
- ◇ 岩倉街道の開通により現在に続く中小田井の町が成立。
- ◇ 庄内川堤防の急坂という運搬の難所に位置したために、休憩や生活用品の購入場所として商家が建つ。
- ◇ 現在残る町並みは、明治 24（1891）年の濃尾地震後のもの。

7. 『小田井地区（岩倉街道）』（歴史的環境研究会）NA295

タイトルコード 1009310056679

【主な内容】

- ◇ 中小田井地区の歴史的景観に関する調査報告書。
- ◇ 「Ⅰ小田井地区の沿革」「Ⅱ小田井地区の現況」「Ⅲ小田井の町並景観」「Ⅳ小田井地区の生活環境」「Ⅴ景観・保全計画」
- ◇ 岩倉街道は、枇杷島から庄内川の右岸ぞいに北上、下小田井、中小田井、上小田井に出て、稲生路（街道）と合して岩倉へ達する。
- ◇ 稲生（いのう）街道は、浄心から稲生、庄内川を稲生の渡でこえるルート。
- ◇ 岩倉街道は鉄道の敷設により変化するが、大正時代はまだ往来が激しかった。
- ◇ 明治以降の中小田井の変化を示す地形図。

8. 『山田地区30年のあゆみ』 NA295

タイトルコード 1009310040555 ★239～243 ページ

【主な内容】

- ◇ 山田地区はほぼ中心に岩倉街道が通っていたが、駅も設けられておらず徒歩移動がほとんど。徒歩移動には、道程が重要。
- ◇ 平田村・中小田井村の人々は、岩倉街道から枇杷島橋を渡って名古屋に出たが、上小田井村・大野木村・比良村の人々は、稲生の渡しを経て稲生道から名古屋へ出た。
- ◇ 明治に入り、岩倉から岩倉街道を平田、中小田井と通り、枇杷島橋を渡り美濃街道を押切から名古屋城西の好生館まで乗合馬車が運行されていた。停車駅も決められ、2時間おきの運行のため時間馬車といわれた。

9. 『西区70年のあゆみ』 NA25

タイトルコード 1009210092394 ★68～72 ページ

【主な内容】

- ◇ 稲生街道が中小田井木曾橋で合する岩倉街道は、美濃路の枇杷島橋西端を起点として、庄内川に沿って北上し、中小田井、平田から九之坪、岩倉方面とを結ぶ街道。枇杷島市場への米・野菜等の運搬、生活用品の運搬などで、山田方面の人々にとって、稲生街道と同じく重要な街道であった。

10. 『師勝町史 増補版』(師勝町総務部企画課) NA26

タイトルコード 1009310035765 ★203～205 ページ

【主な内容】

- ◇ 『寛文村々覚書』『尾張徇行記』『尾張志』では、犬山街道・九之坪街道とも呼ばれている。
- ◇ 鹿田加藤未明家文書には、街道の両側に柳の木を植えたこと、橋の上を車をひいて通るのはかたく禁じられたことなど、当時の街道の様子が記されている。

11. 『岩倉市史 上巻』 岩倉市岩倉市史編集委員会／編 (岩倉市) NA27

タイトルコード 1009310044963

【主な内容】

- ◇ 集落形成の条件としては、市域のほぼ中央部を南北に貫通する犬山街道(岩倉街道)との関係も重要。城下名古屋に向う往還であるとともに、市域で最も広い給地を持つ成瀬隼人正の城地犬山に通じる街道でもあった。馬の背に積んだ年貢米が、村々から運ばれたのはこの道であり、商品を背負った振売りの人たちが行き交う風景もみられたはずである。★93 ページ
- ◇ 尾張全体の交通体系の上で岩倉の位置は、さほど重要であったとはいえない。岩倉市域のほぼ中央を南北に貫通する街道は、城下中心の脇街道(名古屋～小牧～犬山)に次ぐ重要な街道であった。★803 ページ
- ◇ 現在の岩倉市を貫通する街道。名称は複数あり。いつごろから近世村絵図などが示す路線になったかは明白ではない。しかし、『寛文村々覚書』に記載があるので藩政当初から整備されていたことは確実である。★804 ページ

12. 『江南市史 本文編』 江南市教育委員会／編集 (江南市) NA27

タイトルコード 1009911018615 ★344 ページ～346 ページ

【主な内容】

- ◇ 享保 16 (1731) 年に開設された小折(こおり)村の市は、犬山街道では、享保 12 (1727) 年の岩倉村に次ぐ六斎市。
- ◇ 城下町名古屋のために青物を集荷する枇杷島の市場の集荷圏は、中島・丹羽・海東・春日井の 4 郡にまたがり、各地帯の農民が生産した商品が市場で販売された。
- ◇ 犬山街道は、名古屋城下より岩倉をへて犬山へ向かう街道。(名古屋～)岩倉までは岩倉街道と呼ばれる。寛文期ごろまでには整備されたとみてよい。

13. 『江南市史 近世村絵図編 解説書』 江南市教育委員会／編集 (江南市)
NA27 タイトルコード 1009410219148
★35 ページ～58 ページ および 188 ページ～190 ページ

【主な内容】

- ◇ 江南市域に江戸時代に存在した村の絵図（『江南市史 近世村絵図編』）の解説。現在の地図と村絵図の対照あり。
- ◇ 岩倉街道の通っていた、(名古屋よりから順に)小折村・安良村・今市場(いまいちば)村・力長村・前野村の様子を解説。

14. 『大口町史』 大口町史編纂委員会／編集 (大口町) NA27
タイトルコード 1009410149002 ★202～213 ページ

【主な内容】

- ◇ 岩倉街道(柳街道)は、名古屋城が築城された頃から、名古屋と犬山を結ぶ街道として重要。岩倉街道は現在の江南市布袋(ほてい)から名古屋市へ通じるもので、江南市小折から一宮市千秋町の東端を過ぎ、岩倉市から西春町、名古屋市西区山田町を経て、西枇杷島町、名古屋市へ入る。柳街道は、小折の岩倉街道より分岐し、江南市東部(力長、前野)、扶桑町(柏森、扶桑、木津[正しくは犬山市か])を経て、犬山市大字犬山出来町で犬山街道と合流するもの。
- ◇ 岩倉街道は下街道と呼ばれ、慶長19(1614)年に、枇杷島市場ができてから大正までの約300年間、この地方の農民が農作物や年貢米を運ぶ道として重要だった。

15. 『扶桑町史』 扶桑町／編 (扶桑町) NA27
タイトルコード 1009210055099 ★102 ページ

【主な内容】

岩倉街道(柳街道とも)は、名古屋城が築城された頃から、名古屋と犬山を結ぶ街道として重要であった。

■ 山田地区を通る岩倉街道 [昭和30(1955)年10月]



『山田村誌』(山田村誌編纂委員会) タイトルコード 1009210065142 より

■ 岩倉街道全図

『尾張古地図集』 小田切春江／画
(愛知県郷土資料刊行会)

タイトルコード 1009610068590

のうち、春日井郡・丹羽郡から *天保期

